
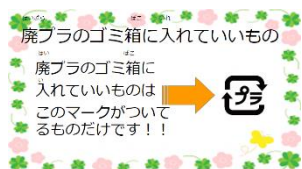

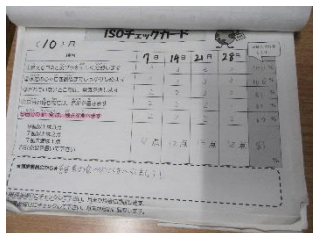



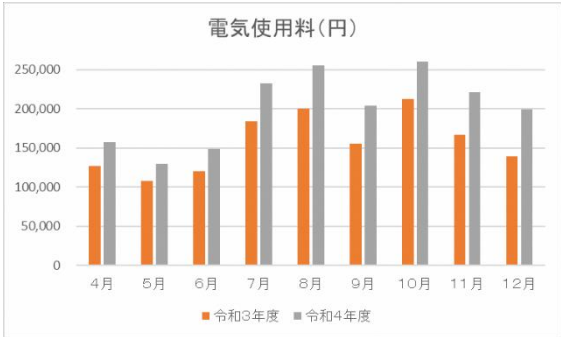

令和4年度（2022年度）学校版環境ISOへの取組

＜ 学校名：津奈木町立津奈木小学校 ＞

1 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言	<p>廊下・教室及び職員室の掲示</p> 	<p>環境委員会が中心となり【分別】【節水】【節電】【ものを大切に】【食べ物を大切に】の5つの観点から環境ISO宣言を設定した。昨年度の反省を踏まえ今年度も継続して行っている。</p> <p>＜児童＞①燃えるゴミと廃プラを正しく分別します。 ②水道のじゃ口は最後までしっかりしめます。 ③だれもないところでは、電気を消します。 ④自分の持ち物には、名前を書きます。 ⑤自分の給食は、残さず食べます。</p> <p>＜職員＞①燃えるゴミと廃プラを正しく分別します。 ②水道のじゃ口は最後までしっかりしめます。 ③電灯・OA機器などのスイッチをこまめに切ります。 ④両面印刷や裏紙利用をします。 ⑤自分が決めた量は食べるように指導します。</p>
行動	<p>児童集会</p>  <p>廃プラチェック</p>  <p>ポスター作成・掲示</p> <p>ISOチェック&amp;集計</p> 	<p>○環境委員会では、6月の児童集会で今年度のISO宣言を発表した。今年度はリモートでの発表となったが、「ISOとは」「なぜISOの取組が必要なのか」「廃プラについて」等を低学年にも分かるように、実践している写真を載せ、スライドで発表した。</p> <p>○各学年棟に廃プラ用のゴミ箱を設置した。何が廃プラなのかを明確にするため、プラマークとその具体例を印刷したポスターをゴミ箱表面に貼った。また、毎週金曜日に環境委員会がゴミ箱の中を確認し、分別ができていない場合は、「これは廃プラではありません」と書いた袋に入れ、分別の方法が分かるように工夫した。</p> <p>○全校児童に、ISO宣言をより意識してもらうためにどのようにすればよいか、委員会の時間に話し合いを行った。児童の自主的な取組により、「節電」「節水」のポスターを作成し掲示した。</p> <p>○毎週金曜日、各クラスでISOチェックを行った。月末には環境委員会が集計を行った。集計では、点数を入力すると達成率が算出される表計算ソフトを使用した。各クラスの達成状況や全体として意識が不足している項目を把握できた。</p> <p>○残さいを減らす取組として、給食を食べる前に、自分が食べる量を調整するよう指導した。</p>

	裏紙置き場 	○職員室の印刷機横には、紙の再利用を促すため裏紙置き場を設置している。職員一人一人が紙の再利用に努めることができた。また不必要なカラー印刷の削減を事務職員が定期的に呼びかた。
記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>電気使用料(円)</p>  </div> <div> <p>水道使用量 (m³)</p>  </div> </div> <p>○節電と節水の取組成果が分かるように、使用料(量)をグラフ化した。</p> <p>○電気については、全体的に前年度の使用量を上回った。</p> <p>○水については、達成ができなかったが、4月～7月にかけては、節水の意識が高く、昨年度よりも使用量を下回った。しかし、漏水があったため8月～12月にかけては達成ができなかった。現在は修理が行われ、改善された。</p>	
見直し	ISO 全学年集計表	○毎月の ISO チェック集計結果から、節水・節電の意識は高まっていることが分かった。取組を継続する。 ○達成状況を確認しながら「自分の給食は、残さず食べます。」の達成率が毎月低い結果であるため校内放送での呼びかけを行っている。 ○学級によって達成率に差が見られた。ISO チェックの結果をしっかりと担任に伝え、学級指導に役立ててもらっている。

## (2) 成果と課題

成 果	課 題
○委員会での取組と学級での継続的な指導により ISO 宣言について意識できる児童が増えた。 ○宣言 5 項目の中でも特に分別において、廃プラのゴミ箱に燃えるゴミが混ざっていることが減り、成果が見られた。 ○宣言項目の取組以外にも、月に一回ゴミ拾いをしながら登校するクリーン登校や PTA 活動など、様々な体験活動を通して環境問題について考える機会が多くあった。	○「だれもいないところでは、電気を消します。」の達成率が低く電気代の使用量も毎月前年度を上回った。こまめに呼びかけを行い、意識付けていく必要がある。 ○低学年には理解が難しいことも多いが、できることで取組を工夫する必要がある。 ○環境委員会の活動において、自分たちで問題意識をもち、アイデアを出し合い、主体的な取組にしていく必要がある。